

明治廿一年七月

韓國江原道北部沿海に於て我漁業者漁
況亮山領事報告件

外務省

3-1784

0388

通商彙纂
官報掲載

在朝鮮國元山港日本領事館

公第 九八 號

明治十七年十月一日

本及今因城津行三付而調長北部沿海
に於ける漁業者、漁況及牛、段ノ状勢別
紙ノ通リ有之、取間供以一覽也

在元山

明治十七年十月一日 二等欣事 二〇五六

外務次官小村壽大郎殿



明治十七年十月一日記録課受

0389

3-1784

水産

◎咸鏡道漁民於本邦漁船概況

三十二年六月三十日付在 元山

領事館報告 二

例年当港に於ける咸鏡道漁船ノ海參濱ニ從事スル者多シ。江原道沿岸ニ移シ其北方ニ漁スル者ハ年々十才ノ一二過キナリシガ最近ノ調査ニ據ル本邦当港に於テ仕ル咸鏡道漁船總計十七艘中其南方江原道地方ニアル者僅ニ二艘ニシテ其ノ十五艘ハ咸鏡道北方各浦ニ漁シ在リ。以テ今回咸鏡道行政機關海軍新浦新島遼湖梨津順川等ノ各浦に於テ或ハ咸鏡道望見セル者古七艘アリ。其ノ中咸鏡道對シテ其時勢ヲ種直業務ニ從事スル者咸鏡道切戒船リ加ヘ尙ホ寄泊ノ浦ハ一々上陸シ各村長等ニ面談シ彼等ノ屏作ニ付取調フル事アリ。モ未ダ今日迄ハ格別彼等ノ間諜家ノ

在朝鮮國元山港

日本領事館

聞ヘテ隨テ彼等ノ咸鏡道籍駐和ノ者モ漁夫中僅々上陸シ陸軍行爲ニ関シ多クハ非難ヲ免レカ。以テ各村長等ニ和訓ヲ付シ咸鏡道業者心得書教通リ配付シ咸鏡道漁船ノ入港ニ際シ豫メ該書ヲ提示ス。様申圖ケ置キタル以テ咸鏡道漁民漸次其意ヲ盡シ咸鏡道カシ守今本年該漁業ノ状況ヲ摘記ス。大略左ノ如シ
一江原咸鏡道沿岸ニ於テ海參濱期ハ例年先ハ四月初旬ニ初リ十二月中旬ニ終ル。其ノ間ハ九十ノ三ヶ月ハ海參一時岩石間ニ入り十月末より再ニ漸次其現スト云フ
一本年ノ漁期ハ例年より一ヶ月余早リ。由ニ其咸鏡道最中ハ五月中旬より一日四斗樽ヲ

ハ提乃至十提ノ漁獲アリ日稍不漁ノ季節
ニ際スモ尚ホ平均四提ヲ獲先ッ本年ノ漁獲
ハ可ナリ好況ニテ昨年ニ比シ一般物價ノ騰貴亦産
備積産ノ増加ニ関セテ概シテ相應ノ利益ヲ得
先方ニテ生海魚五提ヲ以テ乾海魚百斤ノ製
得目下元山支店ニテ本年九条乃至本年亦ハ場
チト云フ

一 例年南方ニハ漁ニ者本年殊ニ北方ニ片寄リ
タル江原道沿岸ハ北方沿岸ニ比シ若年解氷
後早ク漁業ニ従事シ得タリ以テ競テ南方
ニ出漁シタルモ同地ハ毎年年産山方面ニ漸次北上
シ果ル船舶安ク同一地方ニ集中シ居ルニ適当
ノ漁場ヲ得タル者多キヲ以テ当初一二ノ船隻カ

在朝鮮國元山港 日本領事館

右等ノ損失ヲ避ケン爲メ北方ニハ漁シタルモ結果
案外好果アリシヨリ一旦吾南方ニ志シタルモ殊更
北方ニ引返シタルモシテ吾海魚ノ産モ概シテ北方ニ南
方ニ比シ的一割ノ差存アリト云フ

北關牛疫ノ状況

暑第一時猖獗ヲ極メタル當威鏡北道ニ於ケル牛疫
ハ其後漸次消滅シ却テ先般第貳報先
セシヤリレカ今圓元山ヨリ鏡城ニ至ル沿岸各等
泊地ニ就テ尚ホ取柄ハタル元山以北鏡城間ノ威
鏡城以北ハ頗ル地方ニ至ラズ消滅シタリト云フ或尚
ホ未ダ全滅セズト云フ之ヲ支署ノ乳ニ確證アリ得
ス因テハ頗ル地方友ノ査報ヲ依頼シ至キナリ
一 今回北部巡迴ニ付關地人ノ牛疫ニ對シ豫防法

以下九行ヌ

49

按外國列たう兄より花一ニリ述こ被尋ハ
 一朝牛疫流行ノ激ア該疫發生地ノ屋リ
 牛ノ通行ヲ禁絶シテ且邊封豫防ヲ勵行セ
 ルコト殆ト本邦ニ於ケル六種傳染病ニ對シ隔離
 豫防法ト一般極メテ嚴重ニシテ、ヤシ現ノ牛疫開
 溢場ト定メラル城津附近ニ於テ避疫所ノ設ケ
 アリシヲ宜見テ避疫所ニ就キ村邑人家ヲ隔離
 シ山石ノ間ニ於テ搬送スルハ不登リ役ケ其傍ニ
 極メテ大ニ實リ作リ之ニ候屋ヲ同ニ村内ノ病
 牛ノ收容シ治療法トシテ、何時溫湯ヲ浴セシム
 テ其ニ他該疫流行間ニ多病ノ牝牛ニ對シテハ
 第ニ上リ以テ双角ヲ赤色ニ染メ又戸門牆ノ兩
 側ニ懸牛ノ下頸白帛ヲ挿入シ以テ牛疫避除
 ノ吸漸トス等号速信ノ思ハ此ノ屋ヲ其後尋
 カ人身ニ對スル病疫豫防ヲ牛疫ニ就キ如何
 ニ豫防撲滅ニ留心注意スルヲ知知スル餘
 病發シ牛ノ悉皆埋瘞スルコト至極遺憾ニシ
 シ能ハコハリ

在朝鮮國元山港
 日本領事館

日
月
年
9/1/

通商彙纂

在朝鮮國釜山日本領事館

九月廿八日 接受 主權 通商局

公第一六八号

第二二〇七号

明治三十二年自一月至七月迄の
通商彙纂は、既に釜山日本領事館に
寄附し、其の一部を、釜山日本領事館
に、

右の如き、

明治三十二年九月一日

主権

一、釜山日本領事館に、



外務省に、

明治三十二年九月一日